

# 宇治群島の自然調査報告（その2）

桑水流淳二\*・森田康夫\*・丸野勝敏\*・廣森敏昭\*・行田義三\*\*\*・坂下泰典\*\*\*

中間 弘\*・山元幸夫\*・鮫島正道\*\*\*\*・溝口文男\*\*\*\*\*

The Survey on Nature at Uji Islands, Western Part of Kagoshima Prefecture (II)

Junji KUWAZURU, Yasuo MORITA, Katsutoshi MARUNO, Toshiaki HIROMORI,

Yoshizo YUKITA, Yasunori SAKASHITA, Hiromu NAKAMA, Yukio YAMAMOTO,

Masamichi SAMESHIMA and Fumio MIZOGUCHI

## はじめに

鹿児島県立博物館では平成13年度から5ヶ年計画で、「触れ見る知る自然資料収集整備事業」を実施している。その中で、昨年度は宇治島でわずか1回だけの調査ではあったが、貴重な自然資料を収集し、当博物館研究報告（第21号）でその概要を報告した。

今年度は4月26日～28日、9月11日～13日、10月10日～12日の3回実施し、宇治島及び宇治向島での調査を行った。調査は地質、植物、昆虫、貝類、脊椎動物の5分野で行われ、貝類については主に陸産貝類の調査を行った。この調査では、天候や厳しい地形などにより調査期間や調査内容も限られたものにならざる負えなかった。そのため、この報告も宇治群島の自然の一部を示しているに過ぎなく、今後年間を通じた継続的な調査を行う必要がある。

宇治群島は笠沙町野間池から南西の方向約70kmの海上にあり（図1）、今回使用した瀬渡し船で約2時間ほどかかる。宇治群島の主な島は、東側にある宇治島（通称家島；以下、本報告では家島と呼ぶ）と西側にある宇治向島（本報告では向島と呼ぶ）で、二つの島とも無人島である（図2）。家島においてはかつて50頭の牛を放牧したこともあったが、今は死滅している。

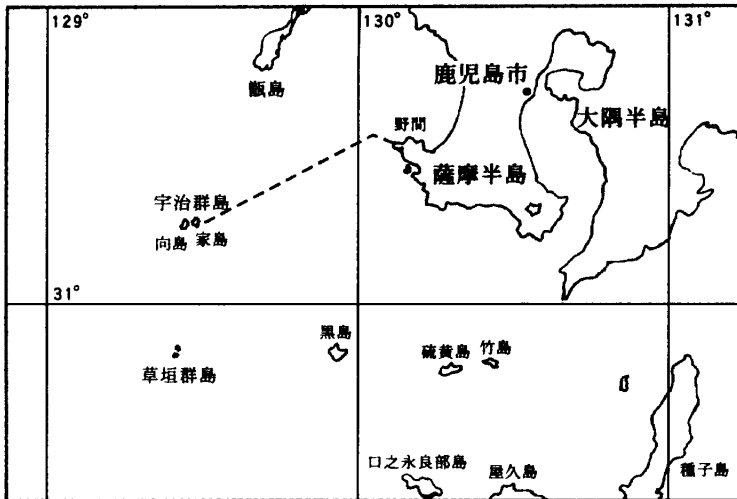


図1 宇治群島の位置

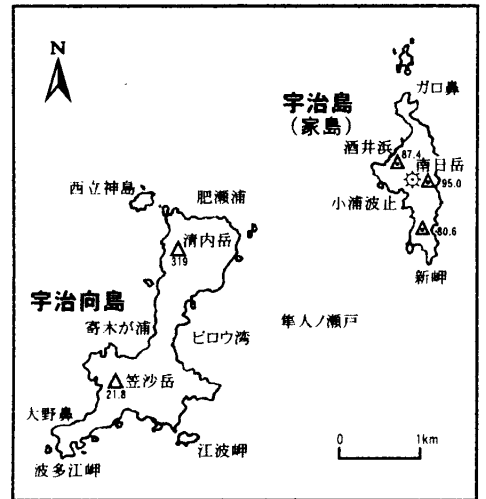


図2 宇治群島

\* 〒892-0853：鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

\*\* 〒891-0116：鹿児島市上福元町5379

\*\*\* 〒890-0024：鹿児島市明和1-59-2

\*\*\*\* 〒899-4395：国分市中央1丁目12-42 第一幼児教育短期大学

\*\*\*\*\* 〒899-0405：出水郡高尾野町下水流3164-7 高尾野町立下水流小学校

## はじめに

南九州地域における地質構造は、臼杵―八代構造線より西側は内帯、東側を外帯に区分されており、向島を含む宇治群島はこの構造線の南方延長に位置する。

宇治群島の地質については、波多江（1956）、今増（1994）、成尾・桑水流（2002）による報告があるが、調査が非常に困難なため、詳細なことは未だよく分かっていない。先行研究によれば、宇治群島の地質は主に南薩・枕崎周辺などに分布する南薩層群と同時期と思われる火山噴出物からなる。ただ、向島の南西端部には堆積岩があり、ここでは砂岩と頁岩の互層がみられる。

今回の向島の調査では、踏査可能な沢などがほとんどないため、船で瀬渡しのできた海岸のみで調査を行った。また、急崖な海岸などで直接観察できない露頭においては、双眼鏡などを用いて可能な限り調査を行った。

## 1 地形・地質概要

向島は南北約3.1km、東西約1.5kmと南北方向に長く西側にわずかに湾曲した島で、面積は約1.75km<sup>2</sup>である。島の周囲には多くの小岩島があり、特に北側にある西立神島は比較的大きい。

島の周囲はほぼ岩崖で囲まれており、東海岸は高さ50m～150mほどの岩崖で、西海岸は高さ50m～200mほどのほぼ垂直な岩崖になっている。入り江になっているところは全くなく、小規模な礫浜がビロウ湾、センバ浦、黒島浦の狭い範囲にみられるだけである。

島内は北側にある標高319mの清内岳と南側の標高218mの笠沙岳を主な峰として急峻な地形を示し、両峰を結ぶ脊梁が南北に連なっている。この脊梁が西海岸に迫っているため、谷は東側に小規模なものがわずかにみられるだけで、河川は全くない。比較的緩やかな地形として、清内岳及び笠沙岳の東斜面がなだらかに海岸へ突き出している。

これまで島のほとんどが安山岩質の溶岩からなると考えられていたが、今回の調査で島の北部から中央部そして南部にかけての広い範囲において泥岩・砂岩及び珪質な凝灰岩からなる堆

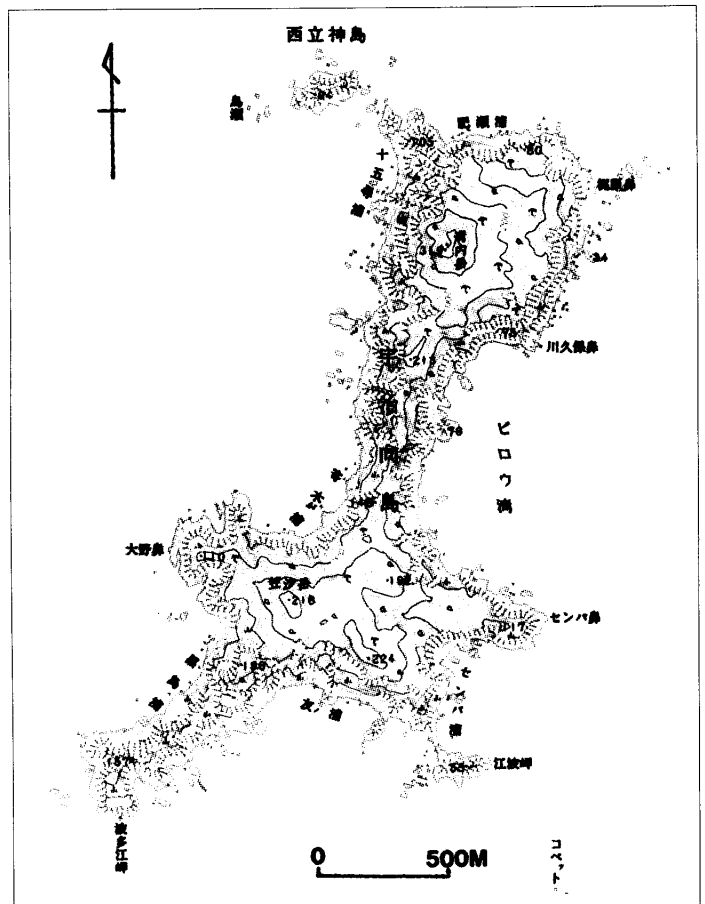


図1 向島の地形図

国土地理院発行2万5千分の1地形図「宇治群島」使用

積岩が分布することが分かった。その層理面の走向は北部から中央部にかけてはほぼ南北で、東に約20°傾き、南部での走行は北東-南西から東西で、南東及び南へ約20°~30°傾いており、島の伸長方向に並行して地層が続いている。この堆積岩から今回初めて二枚貝と思われる化石を発見した。

梶原鼻から川久保鼻にかけての海岸やセンバ浦付近及び大野鼻付近には緑灰色~暗灰色を帯びた安山岩質の溶岩が分布している。長石の白い斑晶が目立ち、その間に輝石などの斑晶もみられ家島に分布する溶岩と似ている。家島に広く分布している安山岩質凝灰角礫岩は、今回の調査ではみられなかった。

## 2 主な地質現象

地点①……西立神島は周囲約700m、最高点94mの切り立った小島で、海上に直立している。全体的に白っぽく、東に傾いた層理の縞模様がよくみえる。淡緑灰色~赤灰色をした細粒~中粒の凝灰岩が単位層の厚さ2cm~5cmで成層し、粗粒部は薄層状~ノジュール状に含まれる。岩質は珪質で非常に硬く、平行葉理やトラフ型斜交葉理、荷重痕などの堆積構造がみられる。また、割れ目に沿って幅1mmほどの黄鉄鉱の細脈を含んでいる。地層の走向がN5°Eで、東へ25°傾斜しているため、この地点で観察される地層が向島で見られる堆積岩の最下部にあたる。

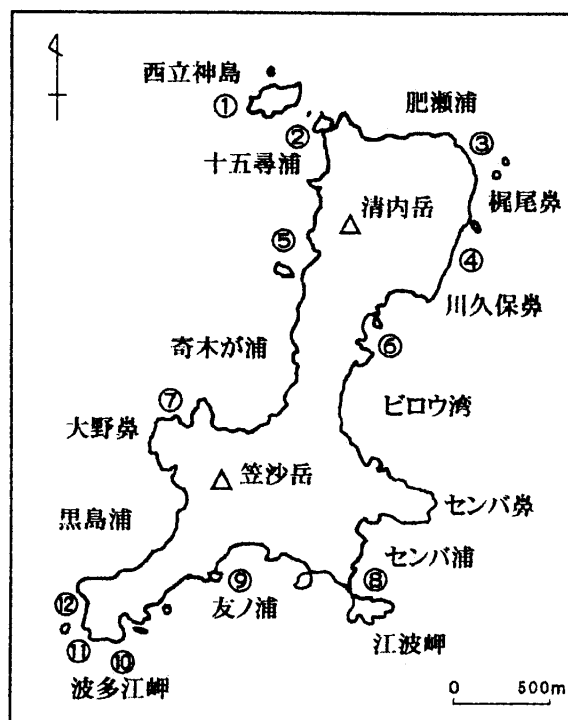


図2 調査地点図

地点②……十五尋浦の最北端には、やや赤褐色をした黒色泥岩が見られる。単位層の厚さが約1mほどで、岩質は粗粒で硬質である。この中に二枚貝と思われる化石が散点的に含まれている。化石の部分は石灰質になっており、溶蝕され空洞になっているものもある。また、砂管状生痕化石が堆積面にほぼ平行に含まれていることもある。地層の走向はN5°Eで、東へ20°傾斜していることより、この地点で観察される地層は西立神島で見られる凝灰岩の上位に位置する。

地点③……肥瀬浦では単位層の厚さが約50cmほどの灰色をした中粒砂岩が分布している。編目状に泥質部を挟み、1mm~3mmほどの白色の長石粒を多く含み、密集しているところもある。地層の走向はN20°Wで、東へ20°傾斜している。地層が東側へ緩く傾いているため、清内岳の北側及び東側では斜面の傾きに対して地層が流れ盤となるため比

較的なだらかな地形をしている。

地点④……梶尾浦から川久保浦の海岸にかけては、緑灰色をした安山岩質の溶岩が分布している。5 mm～8 mmほどの白色をした長石の斑晶が多くみられ、また4 mm～6 mmほどの暗緑色をした輝石の斑晶も認められる。家島でも同様の安山岩質の溶岩が分布するが向島のものよりやや多孔質である。清内岳の東斜面は堆積岩による地層が流れ盤となっているため比較的なだらかな地形をしているが、海岸部分は一転して高さ50 m～150 mの急崖が続いている。この急崖な部分がこの溶岩からできている。

梶尾鼻付近は地点③で見られる砂岩との境界部にあたる。その構造的関係を今回は直接観察することはできなかったが、地形的に鞍部になっており、貫入もしくは断層関係であることが推定される。

地点⑤……十五尋浦の南には、西立神島と同様の淡灰色～暗赤褐色をした珪質な凝灰岩が分布する。細互層した部分は少なく、塊状のものが多し。地層の走向・傾斜は地点①、②と同様で、南北系の走行で東に緩く傾いている。走行方向の南延長部にあたる寄木が浦でも遠望する限りにおいてはこの凝灰岩が分布しているようである。

地点⑥……黒色の粗粒な泥岩が見られる。地層の走向はN60° Eで、北西へ15° 傾斜している。この地層はさらにピロウ湾南部まで分布しているようである。この地質構造と西立神島から十五尋浦そして寄木が浦に分布する凝灰岩及び泥岩の地質構造から考えると島の尾根付近に南北方向の軸を持つ向斜構造が推定される。

地点⑦……大野鼻付近には、暗緑灰色をした安山岩質の溶岩が分布する。地点④で見られるものと比べて細粒である。短冊状の長石や輝石の小粒を含んでいる。また、節理が発達し、高さ約8 m、幅約5 mほどの海食洞が数カ所できている。この溶岩は、さらに南の黒島浦にかけても分布しているようである。

地点⑧……センバ鼻～江波鼻にかけては、地点④と同様の緑灰色の安山岩質の溶岩が分布する。2 mm～4 mmほどの白色の長石や5 mm～7 mmほどの暗緑色をした輝石の斑晶がみられる。

地点⑨……友ノ浦には黒色の泥岩がみられる。細粒で鱗片状に割れやすい。地層の走向はN55° Eで、南東へ30° 傾斜している。

地点⑩……波多江岬では、単位層の厚さが約1 mほどの灰色のシルト岩～砂岩がみられる。1つの単位層の中でも約5 cm幅で互層状を呈し、粗粒部をレンズ状に挟んでいる。また、砂管状生痕化石が堆積面にほぼ平行に含んでいる。地層の走向は東西で、南へ20° 傾斜しており、ここでは見事に一枚岩のように堆積岩が海岸へ突きだしている。波多江岬の東端ではこの堆積岩中に幅約2 mの緑灰色の火山岩が貫入している。貫入面はN60° Wの方向に延び、北東へ50° 傾斜している。接触面は極めて平滑で密着している。

地点⑪……波多江岬の西部では地点⑨と同様の堆積岩がみられる。ここでは、中粒の砂岩からシルト岩へと上方細粒化が認められる。地層の走向はN80° Eで、南へ20° 傾斜している。この堆積岩中に幅約1 mの淡灰色の火山岩からなる貫入岩がみられる。N60° Eの方向にほぼ垂直に貫入している。また、厚さ5 mm～1 cmほどの白色の沸石脈が堆

積岩の層理方向とそれに直行する方向の2方向に認められる。

地点⑫……この地点は、北側に分布する安山岩質の溶岩と南側に分布する堆積岩との境界部にあたる。急崖なため上陸することはできなかったが、遠望する限りにおいては、切り立った溶岩とほぼ水平な層理が認められる堆積岩とが破碎帯のような部分は伴わずに直接接しているようである。この地点は地形的に鞍部になっており、この堆積岩に安山岩質の溶岩が貫入したのではないかと思われる。

### 3 まとめと今後の課題

これまで向島のほとんどが安山岩質の溶岩からなると考えられていたが、今回の調査で広い範囲において泥岩・砂岩及び珪質な凝灰岩からなる堆積岩が認められ、島の伸長方向に並行して地層が続いていることが明らかになった。さらにこの堆積岩から二枚貝と思われる化石を発見した。一方、安山岩質の溶岩は東海岸の一部及び大野鼻付近の海岸部に分布する。長石の白い斑晶が目立ち、輝石などの斑晶もみられる。

今後、今回広い範囲で確認された堆積岩の分布や化石を含めた岩相等をさらに詳しく調査し、その地質構造と堆積環境を明らかにすることで他地域との対比が可能になると思われる。また、家島には火山噴出物が広く分布しており（成尾・桑水流 2002）、家島と向島との火山噴出物の分布の関係も含めて総合的に調査する必要がある。

#### 引用・参考文献

- 波多江信広, 1956, 宇治群島及び草垣島の地質. 鹿大南方産業科学研究所報告, 1, 1-16.  
今増俊明, 1994, 宇治群島の自然(地質). 鹿児島県の自然調査事業報告I「南薩の自然」, 117-118.  
成尾英仁・桑水流淳二, 2002, 宇治群島家島の自然調査概要報告(宇治群島家島の地形・地質). 鹿児島県立博物館研究報告, No21, 3-5.

## はじめに

宇治群島の植物相については、1954年と1956年に内藤喬らの家島を主とした報告があり、1988年には迫静男・丸野勝敏らによる両島の詳細な植物相の報告、さらに1994年の県立博物館が行った「鹿児島島の自然調査事業」による大野照好・川窪伸光の報告もあって、他の生物分野に比較すると調査は進んでいる。

今回、2001年の11月（家島）と2002年の4月（家島・向島）および10月（家島）に、「県立博物館、触れ見る知る自然資料収集整備事業」に基づき、同群島の植物相を調査し、多くの植物資料を収集して標本としたのでその結果を報告する。収集した標本は鹿児島県立博物館の収蔵資料として、当該博物館の収蔵庫に保管してある。なお収集した標本の同定については、鹿児島大学名誉教授の初島住彦氏に御指導いただいた。厚く御礼申し上げる。

## 1 植物調査収集地域の概要

## ① 家島

家島での収集は、2001年の11月に足かけ3日間にわたり行い、さらに2002年の4月に半日、同年10月に1日実施した。

収集域は家島の中心部、灯台のある南日岳付近（標高95m）と、廃屋のあるキャンプ地周辺、南西部の海岸付近と南東部の灯台に至る尾根筋、および島の北部に至る林内等にわたっている。（図1参照）

## ② 向島

向島での植物調査は、2002年の4月に行った。この島は海岸の多くが断崖絶壁で、上陸できる場所が限られており、しかも漁船で近づき、ゴムボートで上陸するという方法しかとれない島である。

今回は、風下側の比較的波の穏やかな南西岸にある、黒島浦の北端の礫海岸に上陸し、そこから急なガレ場を登り、標高200mほどの尾根に達した。しかし尾根上は、高さ2～3mほどの藪で覆われ、尾根伝いにほかの地域へ移動することはできず、5時間ほどの短い時間に、斜面と到達した尾根で調査と収集を実施するにとどまった。（図2参照）

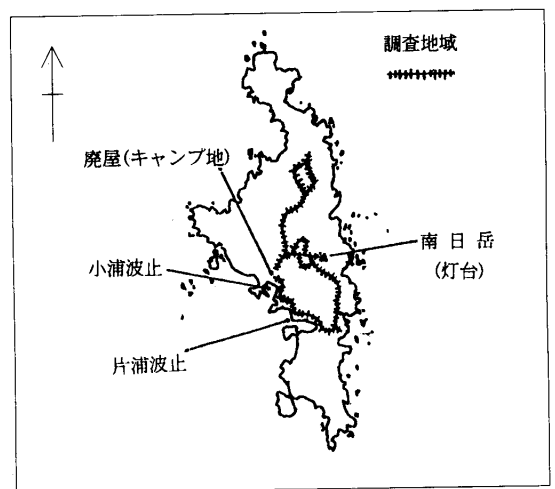


図1 家島の植物採集地域

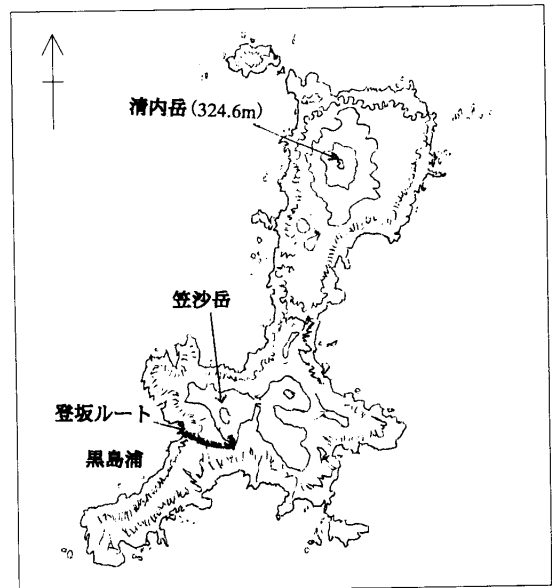


図2 向島の植物採集地域

## 2 収集・確認した植物と初記録種等について

足かけ2年間にわたる3回の調査で、家島については、シダ植物3種と種子植物100種の計103種を確認し、そのうちシダ植物1種と種子植物92種の計93種を採集して標本とした。

向島については、1回だけの上陸で採集数は少ないが、それでもシダ植物3種と種子植物58種の計61種を確認し、そのうちシダ植物2種と種子植物28種の計30種を採集して標本にしている。

今回の調査で得た両島の植物相と、過去の文献記録（1956内藤等，1988迫・丸野，1994県立博物館等）を合わせた表を文末に記す。初記録等の植物については、2001年の調査報告書で発表したものはここでは省略し、新たな種のみについて以下に述べる。（2001年度で報告したものは、種名のみ）

① アマクサギ *Clerodendrum trichotomum* var. *yakusimense* （クマツヅラ科）[初記録種]

家島南東部の尾根上で採集した。個体数は少ない。

② ハラン *Aspidistra elatior* （ユリ科）[野生北限種]

園芸用として庭などにもよく植栽されるユリ科の多年草で、中国原産といわれていたが、近年原産地は、三島村の黒島とトカラ列島の諏訪之瀬島のほか、この向島であることが確認された。

向島では、長さ50cmほどの深緑色でつやのある葉が地表に群生しており、花は時季はすぐれで確認できなかったが、たどり着いた尾根上でこの群生地を発見できたことは大きな収穫である。

③ 昨年度報告した初記録種

- ・ホソバイヌビワ *Ficus sieboldii* （クワ科）
- ・コマツヨイグサ *Oenothera laciniata* （アカバナ科）
- ・フウセントウワタ *Gomphocarpus fruticosus* （ガガイモ科）
- ・キラソウ *Ajuga decumbens* （シソ科）
- ・ヒメセンナリホオズキ *Physalis minima* （ナス科）
- ・ヤマイ *Fimbristylis subbispicata* （カヤツリグサ科）

④ その他、リュウキュウシロスミレと思われる個体と、イヨカズラと思われる個体を採集したが、花がなく種の確認ができなかったため、ここでは取り上げていない。

## 3 家島と向島の植物相についての考察と今後の課題

### (1) 家島

2年にわたる植物収集によって、家島ではシダ植物3種、種子植物100種の計103種を確認したが、この値は1983年の迫等の報告（シダ植物7種、種子植物157種）よりかなり少ない。この理由として、今回調査した場所が島の中心部と東部から東南部に限られており、西部や南端は未踏査であることや、収集時期が限られているため、地上部の枯れた草本等を採集できなかったことなども考えられる。地形の関係で踏査できない地域もあるが、今後、様々な

時期にわたって、全域の調査を試みる必要がある。

また、帰化植物などは狭い離島において長期間定着することは困難で、消滅や新たな侵入を繰り返しているものと考えられる。人為的に植栽した植物も含めてすでに消滅した植物もいくらかはあると考えられる。

なお、この島では野生化したカイウサギが増殖し、かなりの高密度で生息している。そのため多くの植物が食い荒らされ、消滅した種も多いと推測される。幸い固有種のナンゴクアオイやオオイソノギクは食害を免れており、多数の群生地を確認することができた。

## (2) 向島

向島での調査は、現在のところ1回のみで、しかも西南側のひとつの斜面と尾根に限られている。ハランの群生地を確認できたという収穫はあったものの、確認種数は61種とまだ少ない。先にも述べたように、この島は周囲を断崖絶壁に囲まれ、上陸可能な磯海岸の多くは島の東側にある。ただし、東側から上陸するには東よりの風が吹かないという条件が必要で、かなりの運にも恵まなければならない。さらに島の中央部は大きく切れ込み、稜線は南北に分断され、縦走することは不可能である。

向島は家島より面積も広く標高も高いこともあって、家島に比べるとより多くの植物が生育していると考えられている。特に島の北部の稜線上や南東部にはシイ属などの木本も数多く生育しているとの報告もあり、今後機会をみて再上陸を敢行し、過去の文献に紹介されている固有種のウジカンスゲやウジカラマツソウなどに多くの植物の確認と収集を図りたい。

## 引用・参考文献

- ① 内藤喬・新敏夫・大野照好, 1956. 宇治群島及草垣島の植物. 南方産業科学研究所報告, 1, 1, 17-38.
- ② 迫静男・丸野勝敏・他, 1988. 宇治群島の植物相. 鹿児島大学農学部演習林報告, 16, 83-105.
- ③ 初島住彦, 1989. 鹿児島県新分布植物. 鹿児島植物同好会会誌, 10, 94-98.
- ④ 大野照好・川窪伸光, 1994. 宇治群島の自然, 植物. 鹿児島県立博物館報告, 鹿児島島の自然調査事業報告書 I 「南薩の自然」, 104-111.
- ⑤ 森田康夫・丸野勝敏, 2002. 宇治群島家島の自然調査概要報告. 鹿児島県立博物館研究報告, 21, 6-11.



表 宇治群島の植物

[+ : 過去の文献で確認されている種, ● : 今回採集した種, ○ : 今回確認した種]

シダ植物 Pteridophyta

科 名		1956内藤	1988迫・丸野		1994川窪		01~02森田・丸野	
和 名	学 名	家島	家島	向島	家島	向島	家島	向島
イワヒバ科 <i>Selaginellaceae</i>								
イワヒバ	<i>Selaginella tamariscina</i>			+				
コケシノブ科 <i>Hymenophyllaceae</i>								
アオホラゴケ	<i>Crepidomanes latealatum</i>			+				
ウチワゴケ	<i>Crepidomanes minutum</i>			+				
コバノイシカグマ科 <i>Dennstaedtiaceae</i>								
イシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i>	+	+	+			○	●
ツルシダ科 <i>Oleandraceae</i>								
タマシダ	<i>Nephrolepis cordifolia</i>			+				
イノモトソウ科 <i>Pteridaceae</i>								
ハチジョウシダ	<i>Pteris fauriei</i>	+	+					
チャセンシダ科 <i>Aspleniaceae</i>								
オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>			+				
オシダ科 <i>Dryopteridaceae</i>								
ホソバカナワラビ	<i>Arachniodes aristata</i>			+				
コバノカナワラビ	<i>Arachniodes sporadosora</i>			+				
カツモウイノデ	<i>Ctenitis subglandulosa</i>			+				
オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	+	+	+	+		●	○
ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>			+				
ナンカイイタチシダ	<i>Dryopteris varia</i>			+				
オリズルシダ	<i>Polystichum lepidocaulon</i>		+	+				●
ヒメシダ科 <i>Thelypteridaceae</i>								
ミゾシダ	<i>Stegnogramma pozoi</i> ssp. <i>mollissima</i>	+	+	+				
ホシダ	<i>Thelypteris acuminata</i>	+	+	+			○	
ウラボシ科 <i>Polypodiaceae</i>								
イワヒトデ	<i>Colysis elliptica</i>			+				
オオイワヒトデ	<i>Colysis pothifolia</i>	+		+				
シンテンウラボシ	<i>Colysis shintenensis</i>			+				
ヤリノホクリハラン	<i>Colysis wrightii</i>			+				
マメヅタ	<i>Lemmaphyllum microphyllum</i>			+				
ノキシノブ	<i>Lepisorus thunbergianus</i>			+				
コウラボシ	<i>Lepisorus uchiyamae</i>		+	+				
ヒトツバ	<i>Pyrrosia lingua</i>			+				
イワヤナギシダ	<i>Loxogramme salicifolia</i>			+				

## 種子植物 Spermatophyta

## 裸子植物 Gymnospermae

科名	1956内藤	1988迫・丸野		1994川窪		01~02森田・丸野	
和名 学名	家島	家島	向島	家島	向島	家島	向島
マツ科 <i>Pinaceae</i>							
クロマツ <i>Pinus thunbergii</i>		+		+		●	
ヒノキ科 <i>Cupressaceae</i>							
オキナワハイネズ <i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>lutchuensis</i>		+	+			●	

## 被子植物 Angiospermae

## [双子葉類]

科名	1956内藤	1988迫・丸野		1994川窪		01~02森田・丸野	
和名 学名	家島	家島	向島	家島	向島	家島	向島
ブナ科 <i>Fagaceae</i>							
ケウバメガシ <i>Quercus phillyraeoides</i> f. <i>wrightii</i>			+				
スダジイ <i>Castanopsis sieboldii</i>			+				
マテバシイ <i>Lithocarpus edulis</i>			+				
ニレ科 <i>Ulmaceae</i>							
クワノハエノキ <i>Celtis boninensis</i>	+	+	+	+		●	●
エノキ <i>Celtis sinensis</i>		+	+				
クワ科 <i>Moraceae</i>							
イヌビワ <i>Ficus erecta</i>	+	+	+	+		●	○
ホソバイヌビワ <i>Ficus sieboldii</i>						●	
イタビカズラ <i>Ficus nipponica</i>				+			
オオイタビ <i>Ficus pumila</i>		+	+	+		●	●
アコウ <i>Ficus superba</i>			+				○
クワ(ヤマグワ) <i>Morus australis</i>	+	+	+	+		●	●
イラクサ科 <i>Urticaceae</i>							
ニオウヤブマオ <i>Boehmeria gigantea</i>	+	+	+	+		●	○
カラムシ <i>Boehmeria nipponivea</i>	+	+	+	+		○	○
ヤブマオ <i>Boehmeria longispica</i>	+						
ツチトリモチ科 <i>Balanophoraceae</i>							
キイレツチトリモチ <i>Balanophora tobiracola</i>			+				
タデ科 <i>Polygonaceae</i>							
ツルソバ <i>Persicaria chinensis</i>	+	+	+	+		●	○
シロバナサクラタデ <i>Persicaria japonica</i>	+	+					
イヌタデ <i>Persicaria longiseta</i>		+					
ギシギシ <i>Rumex japonicus</i>	+	+	+			○	○
オシロイバナ科 <i>Nyctaginaceae</i>							
オシロイバナ <i>Mirabilis jalapa</i>		+					
ザクロソウ科 <i>Molluginaceae</i>							
ツルナ <i>Tetragonia tetragonoides</i>	+	+				●	
スベリヒユ科 <i>Portulacaceae</i>							
スベリヒユ <i>Portulaca oleracea</i>		+				●	

科 名		1956内藤	1988迫・丸野		1994川窪		01~02森田・丸野	
和 名	学 名	家島	家島	向島	家島	向島	家島	向島
ナデシコ科 <i>Caryophyllaceae</i>								
オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>		+					
コケミズ	<i>Pilea peploides</i>			+				
ヒメハマナデシコ	<i>Dianthus kiusianus</i>		+	+			●	
ハマツメクサ	<i>Sagina maxima</i>		+					
ノミノフスマ	<i>Stellaria alsine</i>			+				
ハコベ	<i>Stellaria media</i>	+	+	+				
ウシハコベ	<i>Myosoton aquaticum</i>		+					
ヒユ科 <i>Amaranthaceae</i>								
ハチジョウノコズチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>hachijoensis</i>	+	+	+				●
モクレン科 <i>Magnoliaceae</i>								
シキミ	<i>Illicium anisatum</i>			+				
サネカズラ	<i>Kadsura japonica</i>			+				
オガタマノキ	<i>Michelia compressa</i>			+				
クスノキ科 <i>Lauraceae</i>								
マルバニッケイ	<i>Cinnamomum daphnoides</i>	+	+		+		●	
ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum japonicum</i>		+	+	+		●	○
ハマビワ	<i>Litsea japonica</i>	+	+	+	+		●	○
タブノキ	<i>Machilus thunbergii</i>	+	+	+	+		●	○
キンポウゲ科 <i>Ranunculaceae</i>								
センニンソウ	<i>Clematis terniflora</i>	+	+	+			●	
ポタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i>			+				
キツネノポタン	<i>Ranunculus silerifolius</i>		+	+	+			
ウマノアシガタ	<i>Ranunculus japonicus</i>	+						
ウジカラマツソウ	<i>Thalictrum ujinsulare</i>			+				
アケビ科 <i>Lardizabalaceae</i>								
ムベ	<i>Stauntonia hexaphylla</i>	+	+	+			●	
ツヅラフジ科 <i>Menispermaceae</i>								
アオツヅラフジ	<i>Cocculus trilobus</i>	+	+	+			●	●
コウシュウウヤク	<i>Cocculus laurifolius</i>			+				
ミヤコジマツヅラフジ	<i>Pracylea insularis</i>		+	+	+		●	●
ツヅラフジ	<i>Sinomenium acutum</i>			+				
ハスノハカズラ	<i>Stephania japonica</i>	+	+	+	+		●	○
コショウ科 <i>Piperaceae</i>								
フウトウカズラ	<i>Piper kadzura</i>	+	+	+			●	●
ウマノスズクサ科 <i>Aristolochiaceae</i>								
ナンゴクアオイ	<i>Asarum crassum</i>	+	+	+	+		●	●
ツバキ科 <i>Theaceae</i>								
ハマヒサカキ	<i>Eurya emarginata</i>	+	+	+	+		●	○

科名		1956内藤	1988迫・丸野		1994川窪		01~02森田・丸野	
和名	学名	家島	家島	向島	家島	向島	家島	向島
ツバキ科 <i>Theaceae</i>								
ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>			+				○
ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>			+				
ケシ科 <i>Papaveraceae</i>								
キケマン	<i>Corydalis heterocarpa var. japonica</i>	+	+	+			●	
アブラナ科 <i>Cruciferae</i>								
マメゲンバイナズナ	<i>Lepidium virginicum</i>		+					
ベンケイソウ科 <i>Crassulaceae</i>								
タイトゴメ	<i>Sedum oryzifolium</i>	+	+	+			●	○
トベラ科 <i>Pittosporaceae</i>								
トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>	+	+	+	+		●	○
バラ科 <i>Rosaceae</i>								
シャリンバイ	<i>Rhaphiolepis indica var. umbellata</i>	+	+	+	+		●	●
テリハノイバラ	<i>Rosa wichuraiana</i>			+			○	
オオバライチゴ	<i>Rubus croceacanthus</i>	+	+	+			●	●
ビロードカジイチゴ	<i>Rubus ribisoides</i>			+				
ハウロクイチゴ	<i>Rubus sieboldii</i>	+	+		+		●	
マメ科 <i>Leguminosae</i>								
ハマナタマメ	<i>Canavalia lineata</i>	+	+	+			●	●
ヤブマメ	<i>Amphicarpaea bracteata var. japonica</i>			+				
ハカマカズラ	<i>Bauhinia japonica</i>			+				
サツマハギ	<i>Lespedeza thunbergii var. satsumensis</i>			+				
ウマゴヤシ	<i>Medicago polymorpha</i>		+					
クズ	<i>Pueraria lobata</i>	+	+	+	+		●	
タンキリマメ	<i>Rhynchosia volubilis</i>	+	+	+				
カタバミ科 <i>Oxalidaceae</i>								
カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	+	+	+	+		●	
トウダイグサ科 <i>Euphorbiaceae</i>								
アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	+	+	+	+		●	
エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>		+					
イワタイゲキ	<i>Euphorbia jokinii</i>			+				
コニシキソウ	<i>Euphorbia supina</i>		+					
モチノキ科 <i>Aquifoliaceae</i>								
モチノキ	<i>Ilex integra</i>	+	+	+	+		●	
ニシキギ科 <i>Celastraceae</i>								
マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>	+	+	+	+		●	●
コクテンギ	<i>Euonymus tanakae</i>	+	+	+	+		●	
ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>			+				
モクレイシ	<i>Microtropis japonica</i>	+	+	+	+		●	○

科名	1956内藤	1988迫・丸野	1994川窪	01~02森田・丸野
和名 学名	家島	家島 向島	家島 向島	家島 向島
ミツバウツギ科 <i>Staphyleaceae</i>				
ショウベンノキ <i>Turpinia ternata</i>		+		
ブドウ科 <i>Vitaceae</i>				
ノブドウ(テリハ) <i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	+	+	+	● ●
エビヅル <i>Vitis thunbergii</i>	+	+	+	● ●
ホルトノキ科 <i>Elaeocarpaceae</i>				
ホルトノキ <i>Elaeocarpus sylvestris var. ellipticus</i>		+	+	
アオイ科 <i>Malvaceae</i>				
サキシマフヨウ <i>Hibiscus makinoi</i>	+	+	+	●
ジンチョウゲ科 <i>Thymelaeaceae</i>				
コショウノキ <i>Daphne kiusiana</i>			+	
グミ科 <i>Elaeagnaceae</i>				
マルバグミ <i>Elaeagnus macrophylla</i>	+	+	+	● ●
マルバアキグミ <i>Elaeagnus umbella var. rotundifolia</i>	+	+	+	●
アキグミ <i>Elaeagnus umbellata</i>	+			
ツルグミ <i>Elaeagnus glabra</i>	+			
スミレ科 <i>Violaceae</i>				
タチツボスミレ(ツヤ) <i>Viola grypoceras</i>	+	+	+	●
リュウキュウコスミレ <i>Viola pseudo-japonica</i>		+		
ウリ科 <i>Cucurbitaceae</i>				
アマチャヅル <i>Gynostemma pentaphylla</i>	+	+	+	● ○
オオカラスウリ <i>Trichosanthes bracteata</i>		+		
ゴキヅル <i>Actinostemma lobatum</i>	+			
アカバナ科 <i>Onagraceae</i>				
コマツヨイグサ <i>Oenothera laciniata</i>				●
キブシ科 <i>Stachyuraceae</i>				
ナンバンキブシ <i>Stachyurus praecox var. lancifolius</i>			+	
ミズキ科 <i>Cornaceae</i>				
アオキ <i>Aucuba japonica</i>			+	○
ウコギ科 <i>Araliaceae</i>				
カクレミノ <i>Dendropanax trifidus</i>			+	
ヤツデ <i>Fatsia japonica</i>	+	+	+	○
キヅタ <i>Hedera rhombea</i>			+	●
セリ科 <i>Umbelliferae</i>				
ボタンボウフウ <i>Peucedanum japonicum</i>		+	+	● ○
ハマウド <i>Angelica japonica</i>	+	+	+	○
ハマボウフウ <i>Glehnia littoralis</i>	+			
ツボクサ <i>Centella asiatica</i>	+	+		
ツツジ科 <i>Ericaceae</i>				
マルバサツキ <i>Rhododendron eriocarpum</i>			+	

科名	1956内藤	1988迫・丸野	1994川窪	01~02森田・丸野
和名 学名	家島	家島 向島	家島 向島	家島 向島
ツツジ科 <i>Ericaceae</i>				
アラゲサクラツツジ <i>Rhododendron tashiroi</i> <i>var. lasiophyllum</i>			+	
ヤブコウジ科 <i>Myrsinaceae</i>				
モクタチバナ <i>Ardisia sieboldii</i>	+	+	+	+
タイミンタチバナ <i>Myrsine seguinii</i>	+			
サクラソウ科 <i>Primulaceae</i>				
ハマボッサ <i>Lysimachia mauritiana</i>	+	+	+	+
コナスビ <i>Lysimachia japonica</i>	+	+		
イソマツ科 <i>Pulmbaginaceae</i>				
イソマツ <i>Limonium wrightii</i>			+	
エゴノキ科 <i>Styracaceae</i>				
エゴノキ <i>Styrax japonica</i>			+	
ハイノキ科 <i>Symplocaceae</i>				
クロキ <i>Symplocos lucida</i>	+			
モクセイ科 <i>Oleaceae</i>				
ネズミモチ <i>Ligustrum japonicum</i>			+	
オオバイボタ <i>Ligustrum ovalifolium</i>	+			
ナタオレノキ <i>Osmanthus insularis</i>			+	
リンドウ科 <i>Gentianaceae</i>				
ヘツカリンドウ <i>Swertia tashiroi</i>		+		
キョウチクトウ科 <i>Apocynaceae</i>				
サカキカズラ <i>Anodendron affine</i>		+	+	+
テイカカズラ <i>Trachelospermum asiaticum</i>		+	+	+
チョウジカズラ <i>Trachelospermum asiaticum</i> <i>var. majus</i>	+			
ガガイモ科 <i>Asclepiadaceae</i>				
ケナシツルモウリンカ <i>Tylophora tanakae</i> <i>var. glabrescens</i>	+	+	+	
クロバナイヨカズラ <i>Cynanchum japonicum</i> <i>forma puncticulatum</i>	+	+	+	+
オキナワシタキヅル <i>Stephanotis lutchuensis</i> <i>var. lutchuensis</i>		+	+	+
キジョラン <i>Marsdenia tomentosa</i>			+	
フウセントウワタ <i>Gomphocarpus fruticosus</i>				
アカネ科 <i>Rubiaceae</i>				
ソナレムグラ <i>Hedyotis biflora var. parvifolia</i>		+	+	+
ヘクソカズラ <i>Paederia scandens</i>	+	+	+	+
コバノジュズネノキ <i>Damnacanthus macrophyllus</i>			+	
ヤエムグラ <i>Galium spurium</i>	+	+	+	

科名	1956内藤	1988迫・丸野	1994川窪	01~02森田・丸野
和名 学名	家島	家島 向島	家島 向島	家島 向島
<b>アカネ科 Rubiaceae</b>				
クチナシ <i>Gardenia jasminodes</i>	+		+	
ギョクシンカ <i>Tarenna gracilipes</i>	+	+	+	●
<b>ヒルガオ科 Convolvulaceae</b>				
ハマヒルガオ <i>Calystegia soldanella</i>	+	+	+	
<b>ムラサキ科 Boraginaceae</b>				
ハナイバナ <i>Bothriospermum tenellum</i>	+	+	+	●
キュウリグサ <i>Trigonotis peduncularis</i>	+			
<b>クマツヅラ科 Verbenaceae</b>				
オオムラサキシキブ <i>Callicarpa japonica</i> var. <i>luxurians</i>	+	+	+	+
イワダレソウ <i>Lippia nodiflora</i>		+		
ハマゴウ <i>Vitex rotundifolia</i>		+	+	
アマクサギ <i>Clerodendrum trichotomum</i> var. <i>yakusimense</i>				●
<b>シソ科 Labiatae</b>				
キラソウ <i>Ajuga decumbens</i>				●
ヒメキラソウ <i>Ajuga pygmaea</i>	+	+	+	
コバノタツナミ <i>Scutellaria indica</i> var. <i>parvifolia</i>		+	+	●
ニガクサ <i>Teucrium japonicum</i>		+		
ツルニガクサ <i>Teucrium viscidum</i>	+			
<b>ナス科 Solanaceae</b>				
イヌホオズキ <i>Solanum nigrum</i>	+			●
メジロホオズキ <i>Solanum biflorum</i>			+	
ヒヨドリジョウゴ <i>Solanum lyratum</i>		+	+	+
ハダカホオズキ <i>Tubocapsicum anomalum</i>	+	+	+	+
マルバハダカホオズキ <i>Tubocapsicum anomalum</i> var. <i>obtusum</i>				●
ヒメセンナリホオズキ <i>Physalis minima</i>				●
<b>ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae</b>				
ハマトラノオ <i>Pseudolysimachion sieboldianum</i>		+	+	+
<b>ハマウツボ科 Orobanchaceae</b>				
ナンバンギセル <i>Aeginetia indica</i>	+	+	+	
<b>オオバコ科 Plantaginaceae</b>				
オオバコ <i>Plantago asiatica</i>	+	+		○
<b>スイカズラ科 Caprifoliaceae</b>				
ハマニンドウ <i>Lonicera affinis</i>	+	+	+	+
スイカズラ <i>Lonicera japonica</i>	+			●
ソクズ <i>Sambucus chinensis</i>	+	+	+	+
ハクサンボク <i>Viburnum japonicum</i>			+	●

科名		1956内藤	1988迫・丸野		1994川窪		01~02森田・丸野	
和名	学名	家島	家島	向島	家島	向島	家島	向島
スイカズラ科 <i>Caprifoliaceae</i>								
サンゴジュ	<i>Viburnum odoratissimum var. awabuki</i>			+	+			
キク科 <i>Compositae</i>								
オオイソノギク	<i>Aster ujiensis</i>		+	+			●	
ヤマシロギク	<i>Aster ageratoides subsp. amplexifolius</i>		+					
ハマベノギク	<i>Heteropappus hispidus subsp. arenarius</i>	+						
オキナワテイショウソウ	<i>Ainsliaea macrocrinidioides var. okinawensis</i>			+				
ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	+						
ニシヨモギ	<i>Artemisia indica</i>		+					
オイランアザミ	<i>Cirsium spinosum</i>		+	+			●	○
アレチノギク	<i>Conyza bonariensis</i>		+					
ホソバワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i>	+	+	+	+	+	●	○
ハマナレン	<i>Crepidiastrum lanceolatum f. pinnatilobum</i>		+					
サツマノギク	<i>Dendranthema crassum</i>	+	+	+	+		●	○
タカサブロウ	<i>Eclipta prostrata</i>		+					
ヤマヒヨドリバナ	<i>Eupatorium variabile</i>		+	+				●
ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium chinense</i>	+						
シマヒヨドリ?		+						
ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i>	+	+	+	+		●	○
チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>		+					
ツクシメナモミ	<i>Siegesbeckia orientalis</i>		+				●	
ハルノノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	+	+	+			●	
オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>		+	+	+		●	

[単子葉類]

科名		1956内藤	1988迫・丸野		1994川窪		01~02森田・丸野	
和名	学名	家島	家島	向島	家島	向島	家島	向島
ユリ科 <i>Liliaceae</i>								
リュウキュウヤブラン	<i>Liriope spicata</i>		+	+	+	+	●	
クサスギカズラ	<i>Asparagus cochinchinensis</i>	+	+	+	+			●
ノシラン	<i>Ophiopogon jaburan</i>	+	+	+				
ハラン	<i>Aspidistra elatior</i>			+				●
カラスキバサンキライ	<i>Heterosmilax japonica</i>			+				
ハマサルトリイバラ	<i>Smilax sebeana</i>	+	+	+	+		●	○
サツマサンキライ	<i>Smilax bracteata</i>	+		+				●
ノシラン	<i>Ophiopogon jaburan</i>	+	+	+				
ハラン	<i>Aspidistra elatior</i>			+				●



科 名		1956内藤	1988迫・丸野		1994川窪		01~02森田・丸野	
和 名	学 名	家島	家島	向島	家島	向島	家島	向島
ユリ科 <i>Liliaceae</i>								
カラスギバサンキライ	<i>Heterosmilax japonica</i>			+				
ハマサルトリイバラ	<i>Smilax sebeana</i>	+	+	+	+		●	○
サツマサンキライ	<i>Smilax bracteata</i>	+		+				●
ヒガンバナ科 <i>Amaryllidaceae</i>								
ハマユウ	<i>Crinum asiaticum</i>	+	+	+			○	
スイセン	<i>Narcissus tazetta</i>	+	+					
ヤマノイモ科 <i>Dioscoreaceae</i>								
ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>		+					
ニガカシュウ	<i>Dioscorea bulbifera</i>		+					
ナガイモ	<i>Dioscorea batatas</i>	+						
イグサ科 <i>Juncaceae</i>								
イグサ	<i>Juncus effusus</i>	+	+		+			
ツユクサ科 <i>Commelinaceae</i>								
ツユクサ	<i>Commelina communis</i>		+				●	
マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i>		+					
シマツユクサ	<i>Commelina diffusa</i>	+						
シマイボクサ	<i>Murdannia loriformis</i>	+						
コヤブミヨウガ	<i>Pollia japonica var. minor</i>			+				
イネ科 <i>Poaceae</i>								
ハチジョウススキ	<i>Miscanthus condensatus</i>	+	+	+	+		●	○
カモジグサ	<i>Agropyron tsukushiense var. transiens</i>	+	+	+				
ヤマカモジグサ	<i>Brachypodium sylvaticum</i>		+	+				
ギョウギシバ	<i>Cynodon dactylon</i>		+					
コウライシバ	<i>Zoysia tenuifolia</i>	+	+	+	+		●	
メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>		+					
ヒメイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli var. praticola</i>		+					
オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>		+					
タイワンカモノハシ	<i>Ischaemum aristatum</i>		+					
ノゲカモノハシ	?	+						
エダウチチヂミザサ	<i>Oplismenus compositus</i>		+	+	+			
チヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i>		+					
リュウキュウチク	<i>Pleioblastus linearis</i>	+	+	+	+		●	
スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	+						
ハマヒエガエリ	<i>Polypogon monspeliensis</i>		+				●	
ヒエガエリ	<i>Polypogon fugax</i>	+						
ヤダケ	<i>Pseudosasa japonica</i>			+				
ハマエノコロ	<i>Setaria viridis var. pachystachys</i>		+	+	+		●	
コツブキンエノコロ	<i>Setaria pallide-fusca</i>	+	+					
ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i>		+					
コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>	+						

科名		1956内藤	1988迫・丸野		1994川窪		01~02森田・丸野	
和名	学名	家島	家島	向島	家島	向島	家島	向島
イネ科 Poaceae								
ササガヤ	<i>Microstegium japonicum</i>	+						
チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	+						
ヒメササキビ(コササキビ?)		+						
ヤシ科 Palmae								
ビロウ	<i>Livistona chinensis</i> var. <i>subglobosa</i>	+	+	+	+		○	○
サトイモ科 Araceae								
クワズイモ	<i>Alocasia odora</i>	+	+	+	+		○	○
マムシグサ	<i>Arisaema serratum</i>		+	+				
ムサシアブミ	<i>Arisaema ringens</i>	+	+	+	+		●	●
ナンゴクウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>thunbergii</i>	+	+	+			●	○
カヤツリグサ科 Cyperaceae								
コゴメスゲ	<i>Carex brunnea</i>		+	+			●	
ヒメアオスゲ	<i>Carex breviculmis</i> var. <i>discoidea</i>		+				●	
ウジカンスゲ	<i>Carex conica</i> var. <i>latifolia</i>			+				
ヒゲスゲ	<i>Carex oahuensis</i>	+	+	+			○	●
アゼナルコ	<i>Carex dimorpholepis</i>	+	+				●	
オキナワジュズスゲ	<i>Carex ischnostachya</i> var. <i>fastigiata</i>		+					
シラスゲ	<i>Carex doniana</i>	+	+					
イワカンスゲ	<i>Carex makinoensis</i>			+				
キノクニスゲ	<i>Carex matsumurae</i>		+	+				
イトアオスゲ	<i>Carex leucochlora</i> var. <i>filiculmis</i>	+						
テキリスゲ	<i>Carex kiotensis</i>	+						
ヌカスゲ	<i>Carex mitrata</i>	+						
シチトウイ	<i>Cyperus monophyllus</i>	+						
ハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i>	+						
ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius</i>		+					
イガガヤツリ	<i>Cyperus polystachyos</i>	+	+		+		●	
クグガヤツリ	<i>Cyperus compressus</i>		+					
イソヤマテンツキ	<i>Fimbristylis ferruginea</i>		+		+		●	
シオカゼテンツキ	<i>Fimbristylis cymosa</i>	+						
ヤマイ	<i>Fimbristylis subbispicata</i>						●	
ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i>	+						
ショウガ科 Zingiberaceae								
アオノクマタケラン	<i>Alpinia intermedia</i>	+	+	+			●	●
ラン科 Orchidaceae								
ボウラン	<i>Luisia teres</i>			+				
オキナワチドリ	<i>Amitostigma lepidum</i>			+				

## はじめに

2001年11月7日～9日の調査(家島)に引き続き、本年度の「触れ見る知る自然資料収集整備事業」により2002年は4月(家島), 9月(家島・向島), 10月(家島)の3回, 宇治群島の昆虫調査ができた。このうち4月と9月には夜間灯火採集も実施した。

ここでは、家島と向島の各回の調査で採集・目撃できた昆虫について、その種名等を記録することにする。種名の配列及び学名はチョウ目以外は日本産昆虫総目録(平嶋義宏, 1989)によった。同定は主に筆者が行ったが、ガ類は日本鱗翅学会員の福田輝彦氏に、バッタ目は日本直翅類学会員の山下秋厚氏に依頼した。両氏のご協力を厚くお礼申し上げる。

宇治群島での昆虫調査は、1983年10月の向島の調査(大原昌宏)や1993年9月の家島の調査(江平憲治)などがある。また、最近では笠沙町の漁師で鹿児島昆虫同好会員でもあった松物正美氏の1999年7月～2001年秋までのチョウ類の目撃記録を福田晴夫氏が発表している。

これらの調査記録と筆者の調査記録をまとめて、各目ごとに宇治群島の昆虫目録を作成する。

## I 家島・4月の採集記録

1 調査日 2002年4月26～27日, 26日の夜(午後8時～11時)灯火採集

2 採集記録(種名, 採集頭数等)

(1) トンボ目 **ODONATA** (1科1種)

〈トンボ科 **Libellulidae**〉

ウスバキトンボ *Pantala flavescens* 2～3頭目撃

(2) ゴキブリ目 **BLATTARIA** (1科1種)

〈マダラゴキブリ科 **Epilampridae**〉

サツマゴキブリ *Opisthoptatia orientalis* 1頭

(3) ハサミムシ目 **DERMAPTERA** (1科1種)

〈クヌギハサミムシ科 **Forficulidae**〉

ミナミクヌギハサミムシ *Forficula hiromasai* 幼虫1頭

(4) カメムシ目 **HEMIPTERA** (5科7種)

〈アメンボ科 **Gerridae**〉

シマアメンボ *Metrocoris histrio* 中央を流れる小川の水たまりに幼虫数頭目撃(写真1)

〈サシガメ科 **Reduviidae**〉

ビロウドサシガメ *Ectrychotes andreae* 1頭

〈ナガカメムシ科 **Lygaeidae**〉

オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus* 1頭

ヒメジュウジナガカメムシ *Tropidothorax belongowi* 1頭

〈オオホシカメムシ科 **Largidae**〉

オオホシカメムシ *Physopelta gutta* 1頭

〈カメムシ科 **Pentatomidae**〉

アオクサカメムシ *Nezara antennata* 8頭, 灯火採集

チャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali* 1頭, 灯火採集

(5) コウチュウ目 **COLEOPTERA** (3科4種)

〈オサムシ科 **Carabidae**〉

ヒラタゴモクムシ? *Harpalus platynotus* 8頭・灯火採集

〈コメツキムシ科 **Elateridae**〉

ハマベヒメサビキコリ *Agrypnus miyamotoi* 5頭

クシコメツキ *Melanotus legatus legatus* 3頭

〈テントウムシ科 **Coccinellidae**〉

オオフタホシテントウ *Lemnia biplagiata* 1頭

(6) ハチ目 **HYMENOPTERA** (3科3種)

〈ヒメバチ科 **Ichneumonidae**〉

サキグロホシアメバチ *Enicospilus ramidulus ramidulus* 2頭

〈スズメバチ科 **Vespidae**〉

キアシナガバチ *Polistes rothneyi* 1頭

〈コシブトハナバチ科 **Anthophoridae**〉

クマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans* 目撃

(7) ハエ目 **DIPTERA** (3科3種)

〈ガガンボ科 **Tipulidae**〉

ガガンボ *sp* 1頭

〈カ科 **Culicidae**〉

カ *sp* ボウフラ

〈アミカ科 **Blepharoceridae**〉

アミカ *sp* 4頭

(8) チョウ目 **LEPIDOPTERA** (9科32種)

チョウ類 (2科2種)

〈シロチョウ科 **Pieridae**〉

モンシロチョウ *Pieris rapaerucivora* 目撃

〈マダラチョウ科 **Danaiidae**〉

アサギマダラ *Parantica sita nipponica* 1♂ 他に2~3頭目撃しただけだった

ガ類 (7科30種 すべて夜間灯火採集による)

〈ハマキガ科 **Tortricidae**〉

チャノコカクモンハマキ *Adoxophyes* sp 1頭  
チャモンヒメハマキ *Apotomis maenamili* 1頭  
トビモンシロヒメハマキ *Eucosma metzneriana* 3頭  
アシブトヒメハマキ *Gryptophlebia ombrodelta* 1頭  
フタスジキホソハマキ *Aethes rectilineana* 3頭  
ハマキガ sp 3種

〈キバガ科 Gelechiidae〉

イモキバガ *Brachmia triannulella macroscopa* 1頭 食草サツマイモ  
フタクロモンキバガ *Anarsia bipinnata* 2頭  
キバガ sp 5頭

〈メイガ科 Pyralidae〉

クロスカシトガリノメイガ *Cotachena alysoni* 1頭  
アワノメイガ *Ostrinia furnacalis* 6頭  
フキノメイガ *Ostrinia scapulalis subpacificana* 1頭  
ウラグロシロノメイガ *Sitochroa palealis* 3頭  
クロモンキノメイガ *Udea testacea* 1頭  
ウスベニトガリメイガ *Endotricha olivacealis* 1頭  
ウスアカムラサキマダラメイガ *Calguia defiguralis* 1頭

〈シャクガ科 Geometridae〉

ヨツテンアオシャク *Comibaena diluta* 1頭  
ヨツモンマエジロアオシャク *Comibaena procumbaria* 1頭  
マエベニヒメシャク *Idaca obliteraria* 3頭  
シモフリシロヒメシャク *Scopula coniararia* 1頭  
ウスキクロテンヒメシャク *Scopula ignobilis* 1頭  
ハイイロヒメシャク *Scopula impersonata macescens* 3頭

〈ドクガ科 Lymantriidae〉

ゴマフリドクガ *Euproctis pulverea* 4頭

〈ヒトリガ科 Arctiidae〉

アマミハガタキコケガ *Miltochrista ziczac* 2頭 奄美以南に分布

〈ヤガ科 Noctuidae〉

タマナヤガ *Agrotis ipsilon* 3頭  
スジシロキヨトウ *Leucania striata* Leech 1頭  
ヒメサビスジヨトウ *Athetis stellata* 4頭 (3♂1♀)  
クロスジユミモンクチバ *Melapia japonica* 1頭  
クロキシタアツバ *Hypena amica* 3頭 (写真3, 4)  
ソトウスグロアツバ *Hydrillodes repugnalis* 1頭

### 3 結果の考察

- ・ 全部で26科52種の昆虫を確認できた。内訳は、トンボ目1種、ゴキブリ目1種、ハサミムシ目1種、カメムシ目7種、コウチュウ目4種、ハチ目3種、ハエ目3種、チョウ類2種、ガ類30種であった。
- ・ 4月という時期からかバッタ目は確認できず、チョウ類も2種と2001年11月の記録(11種)に比べると少なかった。
- ・ アメンボ科のシマアメンボは、よく川の上流の清水に生息するアメンボだが、家島の小川で確認したのは驚いた。(写真2)
- ・ ガ類では、種名のはっきりしたヨツモンマエジロアオシャク、スジシロヨトウ、ヒメサビスジヨトウ以外の25種は初記録となる。その中でもアマミハガタキコケガは、これまで奄美大島以南に分布するとされていた。また、マエベニヒメシャクは前翅の紋様が沖縄のみに分布するコフチベニヒメシャクに類似していた。今後、交尾器等による検討が必要である。

## II 家島・9月の採集記録

1 調査日 2002年9月12日、12日の夜(午後8時~11時) 灯火採集

2 採集記録 (種名, 採集頭数等)

### (1) トンボ目 Odonata (1科2種)

#### <トンボ科 Libellulidae>

ハネビロトンボ *Tramea virginia* 1♂ 南日岳(標高95m)灯台で採集, 初記録種

ウスバキトンボ *Pantala flavescens* 1♀ 他に数頭目撃

### (2) バッタ目 Orthoptera (3科6種)

#### <コオロギ科 Gryllidae>

シバズ *Pteronemobius mikado* 1頭, 初記録種

タイワンエンマコオロギ *Teleogryllus taiwanemma* 2頭(幼虫), 初記録種

ツヅレサセコオロギ *Velarifictorus mikado* 2頭(幼虫)

#### <カネタタキ科 Mogoplistidae>

イソカネタタキ *Ornebius bimaculatus* 1♀

#### <キリギリス科 Tettigoniidae>

セスジツユムシ *Ducetia japonica* 1♀, 初記録種

ハタケノウマオイ *Hexacentrus unicolor* 1♀, 初記録種

### (3) カメムシ目 Hemiptera (4科7種)

#### <セミ科 Cicadidae>

クロイワツクツク *Meimuna kuroiwae* 鳴き声を確認

ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* 2♂2♀, 鳴き声も確認できた

#### <ナガカメムシ科 Lygaeidae>

オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus* 1頭

キベリヒョウタンナガカメムシ *Paraparomius lateralis* 2頭

〈オオホシカメムシ科 **Largidae**〉

オオホシカメムシ *Physopelta gutta* 2頭

〈カメムシ科 **Pentatomidae**〉

アオクサカメムシ *Nezara antennata* 1頭

チャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali* 2頭

(4) コウチュウ目 **COLEOPTERA** (4科5種)

〈オサムシ科 **Carabidae**〉

ヒラタゴモクムシ *Harpalus platynotus* 1頭

クロヘリアトキリゴミムシ *Parena nigrolineata nipponensis* 7頭, 灯火採集

〈ハネカクシ科 **Staphylinidae**〉

イブシツヤムネハネカクシ *Quedius samuraicus* 1頭

〈クワガタムシ科 **Lucanidae**〉

マメクワガタ *Figulus punctatus* 1頭

〈コガネムシ科 **Scarabaeidae**〉

フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata* 4頭, 灯火採集

(5) ハチ目 **HYMENOPTERA** (3科3種)

〈ヒメバチ科 **Ichneumonidae**〉

サキマダラヒメバチ *Ichneumon tibialis* 1頭

〈スズメバチ科 **Vespidae**〉

キアシナガバチ *Polistes rothneyi* 目撃

〈コシブトハナバチ科 **Anthophoridae**〉

クマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans* 目撃

(6) ハエ目 **DIPTERA** (2科2種)

〈アブ科 **Tabanidae**〉

イヨシロオビアブ *Hirosia iyoensis* 1頭, 訪花中を採集

〈ハナアブ科 **Syrphidae**〉

ナミホシヒラタアブ *Metasyrphus ferquens* 1頭, 訪花中を採集

(7) チョウ目 **LEPIDOPTERA** (8科40種)

チョウ類 (2科3種)

〈セセリチョウ科 **Hesperidae**〉

イチモンジセセリ *Parnara guttata guttata* 目撃

〈タテハチョウ科 **Nymphalidae**〉

ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* 1♂, 南日岳灯台でアカタテハと空中戦をしていた

アカタテハ *Vanessa indica* 1♂, ヒメアカタテハとテリトリーの争いか?

ガ類 (6科37種 すべて夜間灯火採集による)

〈ハマキガ科 Tortricidae〉

- チャノコカクモンハマキ *Adoxophyes* sp 1頭  
アシブトヒメハマキ *Gryptophlebia ombrodelta* 1頭  
ハマキガ sp 1頭

〈メイガ科 Pyralidae〉

- シロオオメイガ *Scirpophaga excerptalis* 1頭 サトウキビの害虫である  
アミメトガリノメイガ *Chabula trivitalis* 3頭  
モンキクロノメイガ *Herpetogramma luctuosalis* 2頭  
シロオビノメイガ *Hymenia recurvalis* 1頭  
ハネナガコブノメイガ *Marasmia latimanginalis* 1頭  
シロテンキノメイガ *Nacoleia commixta* 1頭  
アワノメイガ *Ostrinia furnacalis* 2頭  
ミナミウコンノメイガ *pleuroptya sabinusalis* 1頭  
ウラグロシロノメイガ *Sitochroa palealis* 2頭  
ホソオビツチイロノメイガ *Sylepta pallidinotalis* 3頭  
アオフトメイガ *Orthaga olivacea* 1頭  
シロオビトガリメイガ? *Endotricha* sp 1頭 ウスオビトガリ,キモントガリ,オオウスベントガリ?

〈シャクガ科 Geometridae〉

- ヨツモンマエジロアオシャク *Comibaena procumbaria* 1頭  
サザナミシロアオシャク *Thalassodes immissaria intaminatas* 1頭  
マエベニヒメシャク *Idaca obliteraria* 2頭  
モントビヒメシャク *Scopula modicaria* 1頭  
ヤクシマフトスジエダシャク *Cleora minutaria* 4頭

〈ドクガ科 Lymantriidae〉

- ゴマフリドクガ *Euproctis pulverea* 2頭

〈ヒトリガ科 Arctiidae〉

- キマエホソバ *Eilema japonica japonica* 1頭  
スジモンヒトリ *Spilosoma seriatopunctata* 1頭

〈ヤガ科 Noctuidae〉

- コイチモジキノコヨトウ *Bryophila parva* 1頭  
オオタバコガ *Helicoverpa armigera* 1頭  
ハマオモトヨトウ *Brithys crini* 2頭 (1♂1♀) 食草ハマオモト  
アトジロキヨトウ *Leucania compta* 1頭  
スジシロキヨトウ *Leucania striata* Leech 2頭  
アワヨトウ *Pseudaletia separata* 6頭



オオホシミミヨトウ *Platysenta illecta* 1頭  
シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua* 4頭  
ハスモンヨトウ *Spodoptera litura* 5頭  
サビイロコヤガ *Amyna stellata* 1頭  
ヒメネジロコヤガ *Maliattha signifera* 1頭  
ヒメゴマフコヤガ *Metaemene atriguttata maculata* 2頭  
ミツモンキンウワバ *Acanthoplusia agnata* 1頭  
アカキリバ *Anomis mesogona* 1頭

### 3 結果の考察

- ・ 全部で25科65種の昆虫を確認できた。内訳は、トンボ目2種、バッタ目6種、カメムシ目7種、コウチュウ目5種、ハチ目3種、ハエ目2種、チョウ類3種、ガ類37種であった。
- ・ ハネビロトンボは初記録種で灯台のところで採集できた。この1頭のみで、他にはいなかった。幼虫のヤゴが成長し羽化できるほどの水系は島内にはないので、迷トンボであろう。
- ・ バッタ目6種のうち、シバズ、タイワンエンマコオロギ、セスジツユムシ、ハタケノウマオイの4種は初記録種である。
- ・ クワガタムシ科のマメクワガタは行田義三氏(貝類担当)が灯台下の照葉樹林内で採集した。

## Ⅲ 家島・10月の採集記録

1 調査日 2002年10月11日 (午前10時～午後5時)

2 採集記録 (種名, 採集頭数等)

### (1) トンボ目 ODONATA (2科2種)

#### <ヤンマ科 Aeschnidae>

ギンヤンマ *Anax parthenope julius* 1♂ 島中央部を流れる小川沿いにパトロール行動をしていた, 初記録種

#### <トンボ科 Libellulidae>

ウスバキトンボ *Pantala flavescens* 数頭目撃

### (2) カマキリ目 MANTOPEA (1科1種)

#### <カマキリ科 Mantidae>

チョウセンカマキリ *Tenodera angustipennis* 1♀, 卵塊も発見 (写真5)

### (3) バッタ目 ORTHOPTERA (2科2種)

#### <カネタタキ科 Mogoplistidae>

イソカネタタキ *Ornebius bimaculatus* 1♀

#### <マツムシ科 Eneopteridae>

アカマツムシモドキ *Aphonoides rufescens* 2♂, 初記録種 (写真6)

### (4) カメムシ目 HEMIPTERA (4科4種)

〈セミ科 Cicadidae〉

ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* 朝と夕方鳴き声確認

〈サシガメ科 Reduviidae〉

ピロウドサシガメ *Ectrychotes andreae* 2頭 (1頭は幼虫)

〈ナガカメムシ科 Lygaeidae〉

ヒメジュウジナガカメムシ *Tropidothorax belogolowi* 1頭

〈カメムシ科 Pentatomidae〉

チャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali* 1頭

(5) コウチュウ目 COLEOPTERA (2科3種)

〈オサムシ科 Carabidae〉

ヒラタゴモクムシ *Harpalus platynotus* 2頭

〈カミキリムシ科 Cerambycidae〉

キボシカミキリ *Psacotha hilaris* 1頭

コゲチャサビカミキリ *Mimectatina meridiana* 1頭

(6) ハチ目 HYMENOPTERA (3科3種)

〈スズメバチ科 Vespidae〉

キアシナガバチ *Polistes rothneyi* 目撃

〈コハナバチ科 Halictidae〉

コハナバチ *sp* 2頭, 訪花中だった

〈コシブトハナバチ科 Anthophoridae〉

クマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans* 1頭, フヨウに訪花中 (写真7)

(7) ハエ目 DIPTERA (1科4種)

〈ハナアブ科 Syrphidae〉

ホソヒラタアブ *Episyrphus balteatus* 1頭 訪花中を採集

ナミホソヒラタアブ *Metasyrphus ferquens* 1頭, 訪花中を採集

オオハナアブ *Phytomyia zonata* 1頭, 訪花中を採集

ハエ *sp* 2種

(8) チョウ目 LEPIDOPTERA (6科10種)

チョウ類 (5科9種)

〈セセリチョウ科 Hesperidae〉

イチモンジセセリ *Parnara guttata guttata* 目撃

〈シロチョウ科 Pieridae〉

モンシロチョウ *Pieris rapaecrucivora* 1♂

〈シジミチョウ科 Lycaenidae〉

ウラナミシジミ *Lampides boeticus* 1♂, 他にも5~6頭目撃, (写真8)

ムラサキツバメ *Narathura bazalus turbata* 1♂, 小屋の約100m上流の小川近くの高

さ約3mの樹(マテバシイより小さい葉)周辺で他にも数頭目撃

〈マダラチョウ科 *Danaidae*〉

アサギマダラ *Parantica sita nipponica* 飛翔目撃(1頭のみ)

〈タテハチョウ科 *Nymphalidae*〉

ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius hyperbius* 目撃(1♂)

ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* 目撃(1頭)

キタテハ *Polygonia c-aureum c-aureum* 目撃(1頭秋型)捕獲失敗, 初記録種

アカタテハ *Vanessa indica* 目撃(2頭)

ガ類(1科1種)

〈スズメガ科 *Sphingidae*〉

ホシホウジャク *Macroglossum pyrrhosticta* 目撃(フヨウに訪花中)

3 結果の考察

- ・ 全部で21科29種の昆虫を確認できた。内訳は、トンボ目2種、カマキリ目1種、バッタ目2種、カメムシ目4種、コウチュウ目3種、ハチ目3種、ハエ目3種、チョウ類9種、ガ類1種であった。
- ・ トンボ目のギンヤンマは初記録種であるが、島内の水系から判断すると迷トンボであろう。
- ・ バッタ目のアカマツムシモドキも初記録種である。これまでアカマツムシモドキの北限は屋久島であったが、宇治家島が北限となる。
- ・ 10月と少し遅い時期であったが、2種のカミキリムシが採集された。
- ・ チョウ類ではムラサキツバメが注目すべき種である。松物氏も1999年8月20日に1頭目撃しているが、採集できたのは初めてである。採集した1♂以外にも最低4~5頭はいた。一時的な発生だろうか、向島でも採集したが定着している可能性はないのだろうか。食樹の調査など今後の継続調査の課題になる。また、目撃記録だがキタテハも初記録種である。

IV 向島・9月の採集記録

1 調査日 2002年9月11日午後8時~11時灯火採集

セミ科, チョウ類以外は全て灯火採集による

2 採集記録(種名, 採集頭数等)

(1) ゴキブリ目 *BLATTARIA* (1科1種)

〈マダラゴキブリ科 *Epilampridae*〉

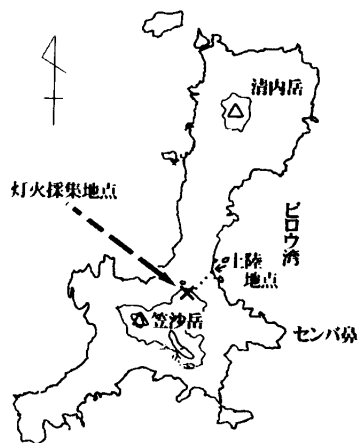
サツマゴキブリ *Opisthoptatia orientalis* 1頭(幼虫)

(2) バッタ目 *ORTHOPTERA* (5科5種)

〈カマドウマ科 *Rhaphidophoridae*〉

カマドウマ *sp* 1頭(幼虫)

〈コオロギ科 *Gryllidae*〉



向島灯火採集場所

タイワンエンマコオロギ *Teleogryllus taiwanemma* 2♂

<カネタタキ科 Mogoplistidae>

イソカネタタキ *Ornebius bimaculatus* 1頭 (幼虫)

<マツムシ科 Eneopteridae>

マツムシモドキ *Aphonoides japonica* 1♀

<キリギリス科 Tettigoniidae>

セスジツユムシ *Ducetia japonica* 2頭 (1♂1♀)

(3) カメムシ目 HEMIPTERA (8科10種)

<ウンカ科 Delphacidae>

ウンカ sp 5頭 (体長約8 mm)

<アオバハゴロモ科 Flatidae>

アオバハゴロモ *Geisha distinctissima* 2頭

<セミ科 Cicadidae>

クロイワツクツク *Meimuna kuroiwae* 鳴き声を確認

ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* 鳴き声を確認

<ツノゼミ科 Membracidae>

マルツノゼミ *Gargara genistae* 2頭

<ナガカメムシ科 Lygaeidae>

キベリヒョウタンナガカメムシ *Paraparomius lateralis* 1頭

<オオホシカメムシ科 Largidae>

ヒメホシカメムシ *Physopelta cincticollis* 2頭

<ホソヘリカメムシ科 Alydidae>

クモヘリカメムシ *Leptocorisa chinensis* 1頭

<カメムシ科>

アオクサカメムシ *Nezara antennata* 3頭

チャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali* 1頭

(4) コウチュウ目 COLEOPTERA (4科6種)

<オサムシ科 Carabidae>

オオアオモリヒラタゴミムシ *Colpodes buchanani* 2頭

カラカネゴモクムシ *Platymetopus flavilabris* 3頭

クロヘリアトキリゴミムシ *Parena nigrolineata nipponensis* 1頭

<コガネムシ科 Scarabaeidae>

アオドウガネ *Anomala albopilosa albopilosa* 2頭

<カミキリムシ科 Cerambycidae>

ヨコヤマヒメカミキリ *Ceresium holophaeum* 3頭

<ゾウムシ科 Curculionidae>

シロアナアキゾウムシ *Hesychobius vossi* 1頭

(5) ハチ目 HYMENOPTERA (2科3種)

〈アリ科 Formicidae〉

アメイロオオアリ? *Camponotus devestivus* 4頭 (羽アリ)

クロヤマアリ? *Formica japonica* 4頭 (羽アリ)

〈コシブトハナバチ科 Anthophoridae〉

クマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans* 1頭

(6) チョウ目 LEPIDOPTERA (9科44種)

チョウ類 (2科3種)

〈シジミチョウ科 Lycaenidae〉

ムラサキツバメ *Narathura bazalus turbata* 1♂, 帰路採集, 向島初記録種

ヤマトシジミ *Zezeeria maha argia* 1♀

〈ジャノメチョウ科 Satyridae〉

ウスイロコノマチョウ *Melanitis* 目撃 (1頭, バナナトラップに数回来たが, ブツシュ  
の中で捕獲失敗), 向島初記録種

ガ類 (キオビエダシヤク以外はすべて夜間灯火採集による 7科41種)

〈ハマキガ科 Tortricidae〉

アシブトヒメハマキ *Gryptophlebia ombrodelta* 1頭

ハマキガ *sp* 1種

〈キバガ科 Gelechiidae〉

コクマルハキバガ *Martyringa xeraula* 1頭

〈イラガ科 Limacodidae〉

テングイラガ *Microleon longipalpis* 2頭

〈メイガ科 Pyralidae〉

ワタヘリクロノメイガ *Diaphania indica* 1頭

ウスオビクロノメイガ *Herpetogramma luctuosalis* 4頭

モンキクロノメイガ *Herpetogramma luctuosalis* 4頭

シロオビノメイガ *Hymenia recurvalis* 1頭

フキノメイガ *Ostrinia scapularis subpacificana* 1頭

ホソオビツチイロノメイガ *Syllepte pallidinotalis* 1頭

アオフトメイガ *Orthaga olivacea* 4頭

シロオビトガリノメイガ *Endotricha aculeatalis* 1頭

〈シャクガ科 Geometridae〉

ヨツモンマエジロアオシャク *Comibaena procumbaria* 1頭

サザナミシロアオシャク *Thalassodes intaminatus* 2頭

マエベニヒメシャク *Idaca obliteraria* 3頭

シモフリシロヒメシヤク *Scopula coniaris* 1頭

ヤクシマフトスジエダシヤク *Cleora minutaria* 2頭

ウコンエダシヤク *Corymica specularia pryeri* 1頭

キオビエダシヤク *Milionia basalis pryeri* 目撃 (1頭のみ, 帰路海岸近く)

#### <ヒトリガ科 Arctiidae>

アカスジシロコケガ *Bizone hamata* 1頭

スジモンヒトリ *Spilosoma seriatopunctata* 2頭

#### <ヤガ科 Noctuidae>

コイチモジキノコヨトウ *Bryophila parva* 5頭

ウンモンキノコヨトウ *Stenoloba manleyi* 3頭

オオタバコガ *Helicoverpa armigera* 1頭

タマナヤガ *Agrotis ipsilon* 1頭

マメチャイロキヨトウ *Aletia consanguis* 1頭

スジシロキヨトウ *Leucania striata* Leech 1頭

アワヨトウ *Pseudaletia separata* 2頭

ナカウスツマキリヨトウ *Callopietria maillardi maillardi* 1頭

オオホシミヨトウ *Platysenta illecta* 1頭

シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua* 4頭

シロナヨトウ *Spodoptera mauritia acronyctoides* 1頭

ツキワクチバ *Artena dotata* 1頭

オオトモエ *Erebus ephesperis* 2頭 (写真2)

クロスジユミモンクチバ *Melapia japonica* 1頭

オオウンモンクチバ *Mocis undata* 1頭

アカキリバ *Anomis mesogona* 1頭

キンモンエグリバ *Plusiodonta coelonota* 2頭

ミナミエグリバ *Calyptra minuticornis* 1頭 屋久島以南に分布し, 数も少ない

タイワンキシタクチバ *Hypocala subsatura* 1頭

ヤクシマコブヒゲアツバ *Zanclognatha yakushimalis* 1頭

### 3 結果の考察

- ・ 向島では, 全部で29科69種の昆虫を確認できた。内訳は, ゴキブリ目1種, バッタ目5種, カメムシ目10種, コウチュウ目6種, ハチ目3種, チョウ類3種, ガ類41種であった。チョウ類のヤマトシジミ以外は全て向島初記録種となる。
- ・ バッタ目ではマツムシモドキが注目される種である。鹿児島県内バッタ目の分布(山下, 2001)では, 県本土のみで記録があり離島の記録はない。家島ではアカマツムシモドキが採集された。両島で両種ともまだ多くの資料収集が必要である。
- ・ 甲虫はアオドウガネ, ヨコヤマヒメカミキリ, シロアナアキゾウムシなどが採集されたが,

期待していたクワガタムシ類は採集できなかった。

- ・ チョウ目では、ムラサキツバメを採集できた。10月には家島でも採集できた。また、ウスイロコノマチョウとキオビエダシャクは鹿児島県本土での定着がまだ確認されていないので、迷蝶・迷ガであろう。ガ類のミナミエグリバは屋久島以南に分布し、数も少ない種である。

## V 宇治群島昆虫総目録

宇治群島の家島・向島における2001年11月、2002年4月、9月、10月の4回の調査と1983年10月の大原氏による向島の調査、1993年9月の江平氏による家島の調査、さらに、チョウ類では1999年～2001年の桧物氏による家島での観察記録も含めて宇治群島の昆虫一覧を作成する。一覧表を作成することで、特定の種を季節的に、時系列的に見ることができると考える。

### [トンボ目] (3科4種)

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
イトトンボ	アジアイトトンボ					○			
ヤンマ	ギンヤンマ				○				
トンボ	ハネビロトンボ			○					
	ウスバキトンボ	○	○	○	○	○			

### [ゴキブリ目] (1科1種)

マダラゴキブリ	サツマゴキブリ	○	○			○		○	
---------	---------	---	---	--	--	---	--	---	--

### [カマキリ目] (1科2種)

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
カマキリ	チョウセンカマキリ	○			○				
	ハラビロカマキリ					○			

### [バッタ目] (6科11種)

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
カマドウマ	カマドウマ					○		○	
コオロギ	シバズ			○					
	タイワンエンマコオロギ			○				○	
	ツツレサセコオロギ	○		○					
カネタタキ	イソカネタタキ	○		○	○			○	
マツムシ	マツムシ					○			
	マツムシモドキ							○	
	アカマツムシモドキ				○				
キリギリス	セスジツユムシ			○				○	
	ハタケノウマオイ			○					
バッタ	トノサマバッタ	○							

[ハサミムシ目] (1科1種)

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
クスギハサミムシ	ミナミクスギハサミムシ		○						

[カメムシ目] (12科17種)

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
ウンカ	ウンカ sp							○	
アオバハゴロモ	アオバハゴロモ							○	
セミ	クロイワツクツク			○		○		○	
	ツクツクボウシ			○	○	○		○	
ツノゼミ	マルツノゼミ							○	
アメンボ	シマアメンボ		○						
サシガメ	ビロウドサシガメ		○		○				
ナガカメムシ	オオモンシロナガカメムシ		○	○					
	ヒメジュウジナガカメムシ	○	○		○	○			
	キベリヒョウタンナガカメムシ			○				○	
オオホシカメムシ	オオホシカメムシ		○	○		○			
	ヒメホシカメムシ					○		○	
ヘリカメムシ	ツマキヘリカメムシ	○							
ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ							○	
キンカメムシ	オオキンカメムシ					○			
カメムシ	アオクサカメムシ		○	○				○	
	チャバネアオカメムシ		○	○	○	○		○	

[コウチュウ目] (11科28種)

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
オサムシ	オオアオモリヒラタゴミムシ							○	
	カラカネゴモクムシ							○	
	ヒラタゴモクムシ		○	○	○				
	クロヘリアトキリゴミムシ			○		○		○	
	オオアトボシアオゴミムシ					○			
ハネカクシ	ツヤケシワチビハネカクシ								○
	コクロヒゲブトハネカクシ								○
	イブシツヤムネハネカクシ?			○					
クワガムシ	マメクワガタ			○					
コガネムシ	フタスジカンシヨコガネ			○		○			
	アオドウガネ					○		○	
コメツキムシ	マメコメツキの1種								○
	ハマベヒメサビキコリ	○							
	クシコメツキ	○							
ヒメハナムシ	チビヒメハナムシ sp								○
テントウムシ	ニジュウヤホシテントウ					○			○



科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,1
テントウムシ	オオフタホシテントウ		○			○			
	ナナホシテントウ	○							
	ヒメカメノコテントウ	○							
カミキリムシ	キボシカミキリ				○				
	コゲチャサビカミキリ				○				
	ワモンサビカミキリ					○			
	ヨコヤマヒメカミキリ							○	
ツツキノコムシ	ツツキノコムシ sp							○	
アリモドキ	ケオビアリモドキ							○	
ハムシ	ウスグロチビカミナリハムシ							○	
ゾウムシ	シロアナアキゾウムシ							○	
	キュウシュウヒメクモゾウムシ								○

ハチ目 (6科8種)

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
ヒメバチ	サキグロホシアメバチ		○						
	サキマダラヒメバチ			○					
アリ	アメイロオオアリ?							○	
	クロヤマアリ?							○	
ツチバチ	ヒメハラナガツチバチ	○							
スズメバチ	キアシナガバチ	○	○	○	○	○			
コハナバチ	コハナバチ sp				○				
コシブトハナバチ	クマバチ		○	○	○			○	

[ハエ目] (6科10種)

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
ガガンボ	ガガンボ sp		○						
カ	カ sp		○						
アミカ	アミカ sp		○						
アブ	イヨシロオビアブ			○					
ハナアブ	ヒメヒラタアブ	○							
	ホソヒラタアブ				○				
	ナミホシヒラタアブ			○	○				
	オオハナアブ				○				
クロバエ	キンバエ?	○							
	ホホグロオビキンバエ	○							

[チョウ目 チョウ類] (7科21種)

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
セセリチョウ	イチモンジセセリ	○		○	○	○	○		○

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
アゲハチョウ	アオスジアゲハ						○		
シロチョウ	キチョウ					○	○		
	ウスキシロチョウ						○		
	モンシロチョウ	○	○		○		○		
シジミチョウ	ムラサキツバメ				○		○	○	
	ルリシジミ						○		
	ウラナミシジミ	○			○		○		
	アマミウラナミシジミ	○				○	○		○
マダラチョウ	ヤマトシジミ	○					○	○	○
	アサギマダラ	○	○		○		○		○
	リュウキュウアサギマダラ						○		
タテハチョウ	ツمامラサキマダラ						○		
	ツマグロヒョウモン	○			○	○	○		○
	ルリタテハ						○		
	ヒメアカタテハ	○		○	○	○	○		○
	キタテハ				○				
	アカタテハ	○		○	○		○		○
ジャノメチョウ	リュウキュウムラサキ	○							
	クロコノマチョウ	○							
	ウスイロコノマチョウ						○	○	

[チョウ目 ガ類] (9科95種)

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
ハマキガ	チャモンヒメハマキ		○						
	アシプトヒメハマキ		○	○				○	
	トビモンシロヒメハマキ		○						
	フタスジヒメハマキ		○						
	ウスコカクモンハマキ	○							
	チャノコカクモンハマキ		○	○					
キバガ	コクマルハキバガ							○	
	フタクロモンキバガ		○						
	イモキバガ		○						
イラガ	テングイラガ							○	
メイガ	シロオオメイガ			○					
	アミメトガリノメイガ			○					
	モンキシロノメイガ					○			
	クロスカシトガリノメイガ		○						
	ミツシロモンノメイガ					○			
	ワタヘリクロノメイガ	○				○		○	
	ヘリグロノメイガ	○							
	ウスオビクロノメイガ							○	

科名	種名	家 島						向 島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
メイガ	モンキクロノメイガ			○				○	
	シロオビノメイガ	○		○				○	
	ハネナガコブノメイガ			○					
	シロテンキノメイガ			○					
	ワモンノメイガ	○							
	アワノメイガ		○	○		○			
	フキノメイガ		○					○	
	ミナミウコンノメイガ	○		○					
	ウラグロシロノメイガ		○	○					
	ホソオビツチイロノメイガ			○				○	
	クロモンキノメイガ		○						
	アオフトメイガ			○				○	
	シロオビトガリノメイガ			○				○	
	ウスベニトガリノメイガ		○						
	ウスアカムラサキマダラメイガ		○						
	シャクガ	ヨツテンアオシャク		○					
ヨツモンマエジロアオシャク		○	○	○				○	
サザナミシロアオシャク				○		○		○	
マエベニヒメシャク				○				○	
シモフリシロヒメシャク			○					○	
ウスキクロテンヒメシャク			○						
ハイイロヒメシャク			○						
モントビヒメシャク				○					
ヤクシマフトスジヒメシャク		○		○				○	
ウコンエダシャク								○	
キオビエダシャク								○	
スズメガ	エビガラスズメ					○			
	ホシホウジャク	○			○				
ドクガ	ゴマフリドクガ	○	○			○			
ヒトリガ	アカスジシロコケガ							○	
	キマエホソバ		○						
	アマミハガタキコケガ	○							
	スジモンヒトリ		○			○		○	
ヤガ	アサケンモン					○			
	コイチモジキノコヨトウ			○				○	
	ウンモンキノコヨトウ							○	
	オオタバコガ			○		○		○	
	オオバコヤガ					○			
	カブラヤガ					○			
	タマナヤガ		○					○	
	マメチャイロキヨトウ							○	
	ハマオモトヨトウ	○		○		○			

科名	種名	家島						向島	
		01,11	02,4	02,9	02,10	93,9	桧物	02,9	83,10
ヤガ	アトジロキヨトウ			○					
	スジシロキヨトウ		○	○		○		○	
	アワヨトウ			○		○		○	
	ヒメサビスジヨトウ		○			○			
	ナカウスツマキリヨトウ							○	
	オオホシミミヨトウ			○		○		○	
	スジキリヨトウ					○			
	シロイチモジヨトウ			○		○		○	
	ハスモンヨトウ	○		○		○			
	シロナヨトウ							○	
	サビイロコヤガ			○					
	ヒメネジロコヤガ			○					
	ヒメゴマフコヤガ			○					
	ミツモンキンウワバ			○					
	イチジクキンウワバ						○		
	ツキワクチバ							○	
	オオトモエ							○	
	クロスジユミモンクチバ		○					○	
	オオウンモンクチバ						○	○	
	アカキリバ			○			○	○	
	ワタアカキリバ						○		
	キンモンエグリバ						○	○	
	ミナミエグリバ							○	
	オオエグリバ						○		
	ヒメエグリバ						○		
	アカエグリバ						○		
	アカテンクチバ						○		
	タイワンキシタクチバ							○	
	スジアツバ	○							
	ナカウスオビアツバ	○							
	オオトビモンアツバ	○							
	クロキシタアツバ		○						
ソトウスグロアツバ		○							
ヤクシマコブヒゲアツバ							○		

- ・ これまで確認されている宇治群島の全昆虫は、10目、63科、197種である。内訳は、トンボ目3科4種、ゴキブリ目1科1種、カマキリ目1科2種、バッタ目6科11種、ハサミムシ目1科1種、カメムシ目12科17種、コウチュウ目11科28種、ハチ目6科8種、ハエ目6科10種、チョウ目チョウ類7科21種、チョウ目ガ類9科94種である。
- ・ この中で家島・向島の両島で確認されている種は、49種で全昆虫の約25%である。チョウ類は向島で記録されている9種全部が家島でも確認されている。家島だけで確認されている

昆虫は116種である。向島だけで確認されている昆虫は33種で、コウチュウ目(12種)とガ類(15種)に多い。

- ・季節的に見ると、4月(春)と秋の両方で記録された種は、26種(4月全50種の約5割)で、カメムシ目が多かった。4月だけ記録されている種は24種、秋だけ記録されている種は147種であった。

## 参 考 文 献

- 大原昌宏, 1984, 宇治群島向島で採集した蝶類. SATSUNMA, 33(91), 71-72.
- 大原昌宏, 1985, 宇治群島向島の甲虫記録. SATSUNMA, 34(93), 10.
- 江平憲治, 1994, 宇治群島の自然・昆虫. 鹿児島県立博物館『鹿児島の自然調査事業報告書南薩の自然』, 112-113.
- 福田晴夫, 2002, 桧物正美氏の調査による宇治群島の蝶類.  
SATSUNMA, 52(126), 102-112.
- 廣森敏昭, 2002, 2001年11月宇治群島家島の昆虫. 鹿児島県立博物館研究報告,  
第21号, 14-18.

## はじめに

宇治群島にはこれまでに3回渡島し調査を行った。1回目は平成13(2001)年11月7日から9日までの2泊3日, 2回目は平成14(2002)年4月26日から28日までの2泊3日, 3回目が平成14(2002)年9月11日から13日までの2泊3日である。1回目の調査記録は21号に報告したので, 2回目・3回目の調査概要をまとめて報告する。

なお, 前号(21号)に誤記があったので, 次のように訂正する。

	誤	正
p.22	イボイボナメクジ 体長2.5mm	体長2.5cm
p.22	Bekkochlamys sp.	Pseudohelicarion sp.

## 1 調査の概要

## (1) 4月26日(2回目)

12時20分, 家島着。港で昼食を終えると荷物をキャンプ地に運び, 13時30分から港付近の調査を行った。湧水が海岸に流れ落ちる所でイシマキガイの生貝を1個見つけた。干潮とはいえ, 瀬が出るようなところはなく船揚げ場付近の窪みを重点的に調査し次の26種を得た。

タマキビ, アラレタマキビ, ホソスジウズラタマキビ, アマオブネ, フトスジアマガイ, オオアマガイ, リュウキュウアマガイ, カラマツガイ, イボニシ, シマレイシダマシ, テツレイシ, クリフレイシ, ゴマフヌカボラ, シロイボレイシダマシ, クロフレイシダマシ, ミダレシマヤタテ, ナガシマヤタテ, ウスヒザラガイ, ヨコスジタマキビモドキ, タテジワミドリ, ハナマルユキ, ハナビラダカラ, ジュズカケサヤガタイモ, ケガキ, クジャクガイ, カイシアオリ

焚き火あとに肉を食べた後の次の16種の殻が散乱していた。

ハチジョウダカラ, オオウラウズ, ベッコウガサ, ヒメクボガイ, ニシキウズ, クマノコガイ, クボガイ, ギンタカハマ, ウズイチモンジ, イボアナゴ, オオツタノハ, テツボラ, キナレイシ, シロクチキナレイシ, ヒロクチレイシ, ヒメイトマキボラ

5時頃から灯台西側の山中に入りチャイロキセルモドキ, ウジグントウゴマガイ, クチビラキムシオイ, イボイボナメクジ, ヤマナメクジ, ピントノミギセル, オオスミヤマキサゴの7種を得た。

## (2) 4月27日

今日は多少波があったが向島の調査を決行することになった。西側の黒島浦から丸野, 森田, 行田の3人でゴムボートを漕いで上陸したのが9時だった。オイランアザミを避けミゾソバの茎に足をとられながらの登山となった。登りは急勾配で崩落石の間から伸びたアコウの枝につかまりながら海拔140mの尾根にたどり着いたのが10時30分。尾根付近で向島固有種のウジグントウマイマイ, ムコウジマコギセルが採れた。その外ウジグントウギセル, オオスミヤマキサゴ, ウジグントウゴマガイ, ハジメテビロウドマイマイ, ヘソカドケマイマイ, ホリマイマイ, ヘソカドガイ, Pseudohelicarion sp.を得て13時頃下山した。海岸でイソニナ, クサイロアオガイ, ヨメガカサ, クビレクロツケ, アラレタマキビを採集した。

## (3) 9月11日(3回目)

向島の陸貝調査を実施した。前回とは反対側から上陸し尾根を目指したが、以前にも増して苦勞した。今回の調査でヘソカドガイ、チャイロキセルモドキが追加された。

(4) 9月12日

家島の陸貝調査。灯台に通じる道端の落ち葉の下からケブカヤマトガイを採集した。初回から狙っていたものだけに成果大だった。

## 2 調査のまとめ

### (1) 宇治群島の陸・淡水産貝類

番号	和名	宇治群島				固有種	写真掲載		殻の大きさ
		家島		向島			21号	22号	
		行田	富山	行田	富山				
1	オオスミヤマキサゴ	+	+	+	+	●		殻径 4 mm	
2	イトマキヤマトガイ	+	+	+	+	●		殻高 5 mm	
3	ケブカヤマトガイ	+	+		+	▲		殻高 4 mm	
4	ケハダヤマトガイ				+		●	殻高 5 mm	
5	ミジンヤマタニシ				+		●	殻径 2 mm	
6	ウジグントウゴマガイ	+	+	+	+	▲	●	殻高 2.5mm	
7	クチビラキムシオイ	+	+	+	+	▲	●	殻径 5 mm	
8	ヘソカドガイ		+	+	+		●	殻高 5.5mm	
9	チャイロキセルモドキ	+	+	+	+		●	殻高 18mm	
10	ピントノミギセル	+	+	+	+		●	殻高 10mm	
11	ウジグントウギセル		+	+	+	▲	●	殻高 26mm	
12	ムコウジマコギセル			+	+	▲	●	殻高 14mm	
13	オカチョウジ	+	+		+		●	殻高 8 mm	
14	シリプトオカチョウジ	+	+				●	殻高 10mm	
15	マルオカチョウジ	+	+				●	殻高 6.4mm	
16	トクサオカチョウジ	+					●	殻高 6.8mm	
17	ホソオカチョウジ	+	+				●	殻高 8 mm	
18	ヤマナメクジ	+	+	+	+		●	体長 5 cm	
19	イボイボナメクジ	+					●	体長 2.5cm	
20	ウメムラシタラ				+			殻径 1.8mm	
21	Pseudohelicarion sp.	+	+	+	+		●	殻径 8 mm	
22	Nipponochlmys sp.		+						
23	タネガシママイマイ	+	+	+	+		●	殻径 30mm	
24	ハジメテビロウドマイマイ	+	+	+	+	▲	●	殻径 22mm	
25	ヘソカドケマイマイ	+	+	+	+		●	殻径 9 mm	
26	ホリマイマイ	+	+	+	+		●	殻径 14mm	
27	チャイロマイマイ	+	+	+	+		●	殻径 30mm	
28	ウジグントウマイマイ			+	+	▲		殻径 49mm	
29	タワラガイ				+		●	殻高 3.5mm	
30	イシマキガイ	+					●	殻高 10mm	
31	カワニナ	+					●	殻高 22mm	

#### ■ 宇治群島の固有種

ケブカヤマトガイ (家島・向島) ウジグントウゴマガイ (家島・向島) クチビラキムシオイ (家島・向島) ウジグントウギセル (家島・向島) ムコウジマコギセル (向島) ハジメテビロウドマイマイ (家島・向島) ウジグントウマイマイ (向島)

#### ■ 分布上注目すべき種

##### イボイボナメクジ

本種を家島で初めて見たとき、普通のナメクジとの違いを実感した。淡黄色で体表はビロードで覆われた感じがした。手で触っても粘つかない。本種は湊(1989)によって徳島県を模式産地として記載された。記載時には徳島県、山梨県、静岡県、和歌山県、香川県の5県に分布することが知られていたが、その後愛知県、兵庫県、奈良県、愛媛県、高知県、鹿児島県からも分布記録が報告されている。鹿児島県では1992(平成4)年、宇野明・増田修両氏が屋久島で採集している。今のところ県内の分布地は屋久島と家島である。

## (2) 宇治群島海産貝類

宇治群島の海産貝類について鹿児島大学の研究紀要に調査報告書が2編ある。Kunio Hirata (1953) :On the Fauna of the Shell-bearing Mollusca of the Uji Islets 収録数は30科106種, Saburo Murayama and Kunio Hirata (1968) :Shell-bearing Mollusca of the Uji Islets には更に48種が追加されている。どこでどのような採集方法で採集したか記録がないが、家島・向島の海岸の厳しい自然環境を見たとき驚異的な数字である。宇治群島の海産貝類相は黒潮系の要素が主流をなしていると述べている。このことは今回得た少ない資料(22科47種)からも首肯できる。

**ウスヒザラガイ科** ホソウスヒザラガイ (家島) **クサズリガイ科** リュウキュウヒザラガイ (家島) **ツタノハ科** オオツタノハ (家島) **ヨメガカサ科** ヨメガカサ (向島) ベッコウガサ (家島) **ユキノカサ科** クサイロアオガイ (向島) **ミミガイ科** イボアナゴ (家島) **ニシキウズ科** クビレクロツケ (向島) クボガイ (家島) ヒメクボガイ (家島) クマノコガイ (家島) ウズイチモンジ (家島) ニシキウズ (家島) ギンタカハマ (家島) **リュウテン科** オオウラウズ (家島) **アマオブネ科** ヒメカノコ (家島) アマオブネ (家島) オオアマガイ (家島) リュウキュウアマガイ (家島) フトスジアマガイ (家島) **ゴマフニナ科** ヨコスジタマキビモドキ (家島) **タマキビ科** タマキビ (家島) アラレタマキビ (家島・向島) ホソスジウズラタマキビ (家島) **タカラガイ科** ハナビラダカラ (家島) ハナマルユキ (家島) ハチジョウダカラ (家島) **アクキガイ科** ゴマフヌカボラ (家島) レイシダマシ (家島) シマレイシダマシ (家島) シロイボレイシダマシ (家島) クロフレイシダマシ (家島) イボニシ (家島) クリフレイシ (家島) キナレイシ (家島) シロクチキナレイシ (家島) ヒロクチレイシ (家島) テツレイシ (家島) テツボラ (家島) **エゾバイ科** イソニナ (向島) **イトマキボラ科** ヒメイトマキボラ (家島) **フデガイ科** ミダレシマヤタテ (家島) ナガシマヤタテ (家島) **イモガイ科** ジュズカケサヤガタイモ (家島) **ミドリガイ科** タテジワミドリ (家島) **カラマツガイ科** カラマツガイ (家島) **イガイ科** クジャクガイ (家島) **マクガイ科** カイシアオリ (家島) **イタボガキ科** ケガキ (家島)

## おわりに

宇治群島の海岸線は人を寄せ付けない岩崖で、調査の足はどうしても陸貝に重点をおかざるをえなかった。今回採集した陸貝の固有種の標本は県立博物館に保管してある。

## 引用・参考文献

- 湊 宏, 1989, 日本産ナメクジ科の新属新種, イボイボナメクジの記載. VENUS 48, 255-258.  
富山清升, 1984, 宇治群島の陸産貝類相. VENUS 43, 199-210.  
湊 宏・増田 修・矢野重文, 1996, イボイボナメクジの新分布記録. ちりぼたん, 26, 100-101.  
奥谷喬司, 2000, 日本近海産貝類図鑑. 東海大出版会.  
行田義三, 2002, 家島の陸・淡水産貝類相. 鹿児島県立博物館研究報告, 21, 19-25.